

平成 19年 12月

杉浦千登勢 学位論文審査要旨

主 査 渡 辺 高 志

副主査 大 濱 栄 作

同 大 野 耕 策

主論文

Immunohistochemical expression of fibroblast growth factor (FGF)-2 in
epilepsy-associated malformations of cortical development (MCDs)

(てんかん原性大脳皮質形成異常における線維芽細胞増殖因子2の免疫組織化学的
発現)

(著者: 杉浦千登勢、宮田元、上田麻奈美、大浜栄作、Harry V. Vinters、大野耕策)

平成20年 Neuropathology 第28巻 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、難治性てんかんを呈した症例の脳皮質形成異常(malformations of cortical development:MCDs)の外科的切除脳組織を対象に、線維芽細胞増殖因子(fibroblast growth factor;FGF)ファミリーのひとつであるFGF-2の発現について免疫組織化学的手法を用いて検討したものである。その結果、balloon cellsを有する限局性皮質異形成病変部と結節性硬化症皮質結節では、FGF-2の発現が有意に高いことが示され、異形細胞の分化・成熟の異常やMCDsのサブタイプによる発生時期を反映する結果と考えられた。さらに、FGF-2の発現が高まっている異形成性病変部における乏突起膠細胞転写因子2(Olig2)陽性細胞の核は正常部位に出現するOlig2陽性の乏突起膠細胞の核と形態的に異なることが示され、dysplastic oligodendroglial cellsの存在が示唆された。本論文の内容は、ヒトの難治性てんかんの原因として重要なMCDsの病態解明に大きく寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。